特別講演

馬と牧士と牧付村と～江戸幕府直営牧をめぐって～

髙見澤　美紀（國學院大學客員研究員、千葉市史編集委員）

牧について多くの研究成果を出しておられる、髙見澤美紀先生を講師にお迎えし、幕府牧と牧に関わる千葉市域の村に住む人々の暮らしを、古文書からトピック的に解説していただきます。
はじめて「牧」を耳にされる方にも、興味深いお話がたくさん伺える、またとない機会です！

日　　時：１２月１６日（土）　１３：３０～１５：００
会　　場：千葉市立郷土博物館　講座室
定　　員：４０名
応募期間：１１月１日～１１月１５日（必着）予定。
＊市政だより１１月号にて募集予定。

平成29年度（後期）千葉市史主催　講座のご案内

中級古文書講座

「江戸時代の村の史料を読む」（仮）

古文書に慣れ、ある程度読める方を対象。
テキストは江戸時代に書かれた古文書の複写。全６回。講師は後藤雅知先生（立教大学文学部教授、千葉市史編集委員）。定員は４０名。千葉市立郷土博物館講座室にて。

日　　程：１１月７日・１４日・２１日・２８日、
　　１２月１２日・１９日（いずれも火曜）
応募期間：１０月１日～１０月７日（必着）予定。
　　＊市政だより１０月号にて募集予定。

【申込方法】
特別講演・中級古文書講座とも往復葉書・電子申請でのお申込みです。
住所・氏名（ふりがな）・年齢・性別・電話番号を明記のうえ、下記 千葉市史編さん担当 までお申し込みください。
葉書の場合、一枚につきお一人のご応募となります。
電子申請の方法ほか詳細は市政だより・千葉市立郷土博物館 HP にてご確認ください。

千葉市立郷土博物館　検索　CLICK!

※お申込み多数の場合、抽選となります。

問い合わせ先
〒 260-0856　千葉市中央区亥鼻 1-6-1
千葉市立郷土博物館　市史編さん担当
TEL 043-222-8231

資料、ホム。

『千葉市史』編さんのため、古い資料・昔の写真などの情報を集めています。
ご家庭で撮影されたスナップ写真も、当時の「千葉」をみることができる貴重な資料です。
いわゆる「古文書」も大歓迎です。
聞き取り調査も行いたいと思っています。戦時中の体験、幼い頃の記憶など、千葉市域に関してお話いただける方がおられましたら、ご連絡ください。
ご提供頂いた資料、伺ったお話の内容の扱いには、十分配慮致します。
皆さまからの情報提供をお待ちしています。

ちば市史編さん便り 19 号　*Chiba-shishi News Letter No.19*
発　行　日　2017 年 9 月 29 日
編集・発行　千葉市立郷土博物館　市史編さん担当
〒 260-0856　千葉市中央区亥鼻 1-6-1

http://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakusyu/bunkazai/kyodo/kyodo_top.html

ちば市史編さん便り

ちば市史 MINI 企画展　展示で古文書講座
千葉市域における近世の馬と牧…… 1
地域の歴史を「未来」へつなぐ
―2つの虫干し会から考える地域の史料との向き合い方……2-3
特別講演・平成 29 年度後期講座のお知らせ…… 4

Chiba-shishi News Letter NO.19 2017.9

ちば市史 MINI 企画展　展示で古文書講座

千葉市域における近世の馬と牧

昨年度に続き２回目の開催となります、ちば市史 MINI 企画展「展示で古文書講座」。実際に展示された古文書をひとつひとつ読み進めながら、江戸時代の千葉市域のようすを知り、千葉市の歴史への理解を深めてもらうことを目的にした展示です。今回は、「千葉市域における近世の馬と牧」と題し、かつて下総台地上に存在した幕府の馬の放牧場である「牧」と、牧周辺の村落との関わりについて考えてみます。

開催期間：平成２９年９月２９日（金）～平成３０年１月１４日（日）
９：００～１７：００（開館時間）＊入館は 16:30 まで。
＊月曜日・祝日は休館（月曜が祝日の場合は翌日も休館）です。
会期中の開館日詳細は郷土博物館 HP にてご確認ください。
会　　場：千葉市立郷土博物館　２階展示室
料　　金：無料
＊お問い合わせは　千葉市立郷土博物館　市史編さん担当　TEL 043-222-8231　まで。

開催期間中、千葉市史編さん担当古文書ボランティアの皆さんによる展示解説を予定しています。

１１月４日（土）・１１月１８日（土）・１２月９日（土）
（１３：００～１５：００予定）

の３日間を予定しています（都合により日にちを変更する場合もあります。あらかじめご了承ください）。

展示されている古文書を一緒に読みながら、文字のくずし方などを含め「ミニ」古文書講座を受けられます。古文書に興味があるけど、いきなりちゃんとした講座はなあ…などと日頃考えている方、ぜひおいで下さい。古文書の敷居がぐっと低くなること請け合いです。

『成田参詣記』巻三（復刻版、千葉市立郷土博物館蔵）
「下野牧野馬執の図」。右→に「牧士」、上↑に「勢子人足」などとみえる。牧内の野馬を捕らえるための人足も、周辺の村々と牧との関わりのひとつ。

地域の歴史を「未来」へつなぐ
――2つの虫干し会から考える地域の史料との向き合い方

地域の史料を地域で伝える――簡単なようでいてなかなか難しいことですが、「アイデンティティー」について考える機会の多くなった昨今、地域に残された史料群は、まさにその「よって立つ」ところのひとつになり得るものです。古くからある村には、長い年月をかけてそれぞれの地域で保管されてきた史料があります。村や町単位で代々受け継がれていくそれらを、いかに守り、つないでいくか。今回はそのひとつの方向性として、千葉市域で現在も行われている「町有文書の虫干し会」について紹介しながら、考えてみたいと思います。

今回、こころよく虫干し会へのご参加をお許しくださいました稲荷町内会の皆さま、平川町内会の皆さまに、改めて感謝を申し上げます。

稲荷町有文書の場合

稲荷町内会では、毎年７月９日に町内会の皆さん・稲荷神社の氏子さんを中心として、虫干し会を開いておられます。

稲荷町有文書は、稲荷神社で保管されており、虫干し会は一種の「神事」として位置づけられています。町内会の方々、氏子の方々などが同席され、社務所にて史料が入った箱の前に祭壇が設けられて祝詞があげられます。一通りの儀式が終了したのち、前年度にされた封をあけ史料を取り出していきます。

次々出される史料で足の踏み場もないくらいに部屋がいっぱいになっていき、大きな絵図や、稲荷町有文書の特徴のひとつである「船」に関する史料などがならびます。ひとしきり、皆さんで内容を確認された後は、もう一度箱に戻され、箱には改めて今年の封がされます。

一連の流れを拝見すると、稲荷町にとって、この史料群は神社が預かり管理する、ある意味神聖なものなのでしょう。地域の大きな財産であるという認識が、そういった形で後世に伝えていくことにつながったと考えられます。とにかくこれは大事なものである、しっかりと残していかなければならないと考えられていることが、とてもよく伝わってきました。

稲荷町有文書のように身近なところでの保管は、地域の方々にとっては、古文書の存在をたびたび意識することになり、「守っていかなければならない」という意識を更に高めることにもつながっているのかもしれません。

我々も榊をあげさせていただきました。

稲荷町有文書の目玉のひとつ、天保 13 年 (1842) に作成された黒砂村から今井村までの海岸を測量した絵図。海岸線の長さと沖合 30 町までの 10 町ごとの水深が書き込まれています。

来年の虫干しまで、しっかり封をして保管されます。

裁許絵図の表裏を実際に見ながら、その場で先生から説明を伺いました。

平川村の絵図と争論の際に作られた絵図、そして Google Earth などの航空写真を使って、現在の土地の形と比較もしてみました。

平川町有文書の場合

以前にもご紹介いたしましたが、平川町内会では７月の土用に近い土曜日午前に、虫干し会を開いておられます。千葉市立郷土博物館へ史料を寄託していただいている関係で、毎年千葉市史編さん担当が史料を持ってお邪魔させていただいております。

今年もお邪魔して参りました。ここ２、３年は市史編さん会議委員や市史編集委員の先生方もご同行され、今年は平川町有文書についての小報告も行われました。

平川町内会の虫干し会では、今回、町内の小中学生にも虫干し会への参加を呼びかけたとのことです。はじめは若干難しそうな顔をしていた子どもたちも、実際に大きな絵図を前にし、専門家の先生方からの説明を受け始めると、とても興味深そうに見ていました。

今回ご参加いただいた子どもたちは、平川町の未来を担う子どもたちです。平川町有文書が、地域にとっての「宝」であり続けるためには、彼らが興味を持つことが一番の近道だろうと考えます。これまで、先人たちが守り受け継いできた「史料群」とはどういったものなのか、実際に広げてみて、気になるところを専門の先生からレクチャーを受け、理解していくことで、これらの史料が自分たちの「アイデンティティー」形成にどれだけ役にたつのかを、実感できるに違いありません。

そうした意味でも、虫干し会はぜひ続けていただきたいと願っています。千葉市立郷土博物館では、史料を大切にお預かりして保存し、虫干し会のときには一緒に改めて勉強し、地域の歴史を伝えていくお手伝いが少しでもできたらと考えています。

今回も虫干し会終了後に、先生方と市史編さん担当で平川村の絵図を片手に歩いてみました。絵図に描かれた景観が、現在も残っている、とても美しい風景を拝見することができました。近隣のみなさま、驚かれたかもしれませんが、とても有意義な体験ができました。ありがとうございました。